



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円

道標



四百六十年目の今年のザビエル上陸記念祭

新たな記念祭の姿を模索

前夜祭(8月9日)には平和の対話集会

祇園之洲から福昌寺跡を經由しザビエル教会までを徒歩巡礼する「ザビエルウォーク」に始まり、ザビエル教会での記念ミサで締めくくられる「ザビエル上陸記念祭」が八月十六日(日)午後行われた。聖フランシスコ・ザビエルの鹿兒島上陸から四百六十年目に当たる今年の記念祭は、平和の集い(パネルディスカッション)をその一週間前に「前夜祭」として開催するなど、これまでの記念祭とは一味違うものとなった。

鹿兒島市内各教会と壮年、婦人、青年などの代表者で構成されているザビエル上陸記念祭実行委員会(藤山喜和委員長)は、今年三月に開催された第二回会合で「新たな企画へのチャレンジ」を目標に掲げ、八月の記念祭本番だけの実施でなく、連合壮年会と協力し復活祭(四月十二日)の遠足にザビエル縁の地・東市来を訪問することを目指し、大勢の信者に学習する機会を与えた。これは「マンネリ化」や「内向き過ぎ」と危惧されてきた記念祭に



猛暑の中を力強く進むザビエルウォーク

変化を持たせようと、まず「ザビエルの熱き心」を学ぶことから始めるとい一つ一つの取り組みだった。その実行委員会が今年の記念祭で挑戦したのが、鹿兒島ユネスコ協会に働きかけて実現させた「平和の集い」。八月九日(日)午後、ザビエル教会で鹿兒島ユネスコ協会、西本願寺、鹿兒島別院、日本基督教団鹿兒島加

ザビエルウォーク

青年たちが担当し、四キロ余りを徒歩巡礼することになった。参加者があつた。

祇園之洲ザビエル上陸記念碑前に集まった参加者たちは、挨拶に立った郡山司教の「人生は思い通りにはいかない。でも前進するしかない」というメッセージを胸に、猛暑の中、午後一時四十五分歩み始めた。

治屋町教会、カトリック鹿兒島司教区のそれぞれの代表が「世界の恒久平和をめざして」をテーマに意見交換する場が設けられた。(三面に掲載)

新風

私はぶどうの木、あなたがたはその枝である。九月十三日(日)に開催される「教区フェスタ」の今年のテーマは「同じ木の枝」です。これは「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」(ヨハネ福音書十五章五節)からとられたものです。イエスキリストとわたしの絆がどんなに堅固なものであるかという事は、このイエスキリストのお話によって分かります。「わたしもあなたがたにつながっているように、わたしがあなたに

教区フェスタに向けて

ぶどうの枝が、木につながっている。ぶどうの枝が、木につながって、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながって、実を結ぶことができない」(同上四節)。

とても説得力のある言葉です。教区フェスタは司教座教会献堂記念日(九月十五日)として開催されます。現在鹿兒島教区には司祭在任の教会は二十八、巡回は四十一あり

いるものを、ザビエルが運んで来たものが「真の平和」という観点から上陸記念祭の中で実施している。挨拶に立った田中弘允鹿兒島ユネスコ協会会長は、戦争の悲惨さを説いた上で、「戦争が始まるきっかけに国民の後押しや暗黙の了解、無関心があることは否めない。だから一人ひとりの心の中に平和の砦を築こう」と話した。またその後挨拶した小川靖忠神父(ザビエル上陸記念祭実行委員会顧問司祭)は、「このイベントに参加した一人ひとりが平和の使者となる決意を持って欲しい」と述べた。その後、田中弘允会長と小川靖忠神父によってカテドラルの鐘が打ち鳴らされると、参加者たちは世界の平和のために心を一つにして黙祷をささげた。

上陸記念ミサ

午後五時からのミサには四百人が参列。聖堂の中でこの参列者たちは十六人の司祭団とザビエル像、ザビエル神輿を迎え、ミサにあずかった。ミサで説教した郡山健次郎司教は「闇が覆い尽くしているように感じる現代社会だが、預言職にあずかっ

教区人事

▼グエン・ホグ・タム神父(鹿屋教会助任司祭)は八月一日付同教会主任司祭
▼山口好信神父(鹿屋教会主任司祭)は八月一日付鴨池小教区協力司祭

祝賀会

ミサ後に教会ホールと中庭で交流の時間が持たれた。その席では、昨年に引き続き実施された「ザビエルクイズ」の当選者に賞品が渡されたほか、フィリピ共同会から歌と踊りの披露、そして鶴丸高校のバンド「ネイフィス」の演奏があった。

YET

「O! X! Δ!」
「そうなの?」
「ウン」
「え?」
「すごいね!」
「うん」
「最近頻りに交わされるようになった息子(一歳十か月)との会話。職場から帰ると何かに取り憑かれたかのようにおしやべりを始める。何か懸命に伝えようとしていたが、まだすべては理解できない。それでも「目交いを大切に」という言いつけを守って「そうなの?」「すごいね!」と返答すると、「この世の至福の時」とばかりに満面の笑みで「ウン」と締めくくってくれる。▼昼時になると街をぶらりとする。理由は蒸暑い職場にいるより、繁華街のアーケードや書店を徘徊するほうが涼しいからだ。それともう一つ、じつとしていてと腹が減ってしまふ▼最近オープンした鹿兒島では珍しい屋台で「仕事帰りに生ビールを」としゃべり込むには、三日ほど昼食を抜かなくてはならない。三百九十円のビールと二百九十円のつまみ、ゆとりがあれば一杯百五十円なりの焼酎が飲める。まさに「ダレヤメ」至福の時なのだ。「男の居場所を見つけた」そんな優越感がひそかに味わえる▼でもビールで咽を潤してしばらくすると、お決まりのようになぜだかあの訳の分からない会話が交わされる場に帰りたくなる。そう、何と云ってもあそこが「帰る場所」。今はチビのその愛らしさで居心地の良さ、第一位の座をキープ。とは言え一応クリスチャン、本来なら「帰る場所」はもっと根源的な欲求からくる場になるべきなのだが…。そんな日を早く迎えないと大変なことになる…

北薩宣教奉仕者養成講座から

人生を意義あるものに

出水教会主任司祭 大松正弘

人は誰でも人生に夢を持って... 希望の学校に入学すること、若い女性は素敵な男性に出会って結婚すること、サラリーマンは良い収入を得ること、政治家は選挙に当選することなど、そうやって人は幸せになることを夢見ています。

でも現代はその様に願って努力しても、昨年末からの世界同時不況の中で仕事を解雇されたり、生産調整を余儀なくされ給料が減額されたり、住宅ローンの支払いが出来なくなったり、経済的な問題から学校を続けることが出来なくなったり、将来に夢が持てない不況の時期です。確かに今日食べ物のない生活をしている世界中の貧しい人々には考えられないほど、私たちは豊かさの中に生きているにもかかわらず、誰もが生活不安になっていくようです。

皆さんは貧しい国の人々がよく笑っている写真をご覧になったことがあると思います。何も持たないにもかかわらず、彼らの心はどうして明るいのでしょうか? 先進国の人々と貧しい国の人々の違いはどこにあるのでしょうか? 豊かさには慣れている私たちはそれを手放すことがとても難しくなっています。車、冷暖房、高速道路、飛行機、新幹線などは今はなくてはならないものになりました。豊かさの追求はそれ自体悪いことではありませんが、自分の欲求がいつでも

くしてしまうのではないのでしょうか? 他者の痛みや苦しみを、悩みや試練を聞きなくなってくるように思います。

イエスは私たちに教えて下さっています。他者との関係性を大切にすることによって、新しい人生の意義や目的を見出すように。わたしたちがすべての人と互いに愛し合うことによって神の国の完成を目指す生き方を教えて下さいました。

今日、あなたは自分の心を見つめることを通して、わたしを導いて下さいました。わたしは自分の思いに囚われて周囲の人と共感できなくなる時があります。自分の欲求に従うと、心は不平不満で一杯になります。でも、あなたはいつともまわりの人々の苦しみや痛みを感じ取られる生き方を教えて下さいました。わた

しの人生が意義あるものとなるのはあなたとの深い一致のうちに歩む時です。わたしの言葉と行いがあなた自身を思いと一つでありますように。

日本カトリック障害者

連絡協議会新潟大会に参加して

全国からの二百七十人の集いに、鹿兒島教区から五人で参加いたしました。新潟の地を踏むのも力障連に参加するのも初めての私、不安で一杯。会場に足を踏み入れた瞬間「こんなに沢山の共同体があるんだ」と思いました。

式次第に従い会は始まりました。それぞれにハンディーを持ちながら、それぞれの役目を果たしている人々、その障害者を支える自然なボランティアの両方の姿が私の目には輝いて映りました。分科会では十グループにわかれ、私は「相互の遠慮

を乗り越えて」というグループで二十五人の方々と分かち合いをしました。日常の生活を通しての沢山の発言を聞きましたが、私の心に響いた発言は「私は突然耳が聞こえなくなり、友達もいません。手話も出来ません」と「私は兄弟もなく、両親も亡くなりました。幸い友達は沢山います。生まれ変わっても今の私でいたい」などです。多かつた発言は「何かをしてもらおう時『すみません何々をして下さい』『すみません。ありがたうございませう』と言ってしまう」というものでし



鹿兒島からの参加者

た。私もついこのように頼みます。何処かで遠慮しているのかもしれない。この発言に対してボランティアの方が「私はヘルパーをしています。お風呂に入れてたんび、おばあちゃん、すみませんと言わんでいいのよ。すみませんって言うよりも、ありがたうと一度言ってくれば本当に嬉し

いと言います。ある意味では日本人の礼儀かもしれませんね」と発言なさいました。二日目は会場が菊地司教様と神父様方のごミサにあずかりました。神父様のご聖体を一人ひとりの席まで届けて下さいました。私はご聖体を頂いたと同時に二日間の出来事を思い出して、胸が熱くなり涙がでてきました。最後に「アーメン・ハレルヤ」を皆で歌いすべての会が終わりました。この力障連に参加して感じたことは、同じ信仰、同じ障害を持った共同体があること。そして重いハンディーにも負けず歩いている姿を見て、勇気と熱意をもつたことです。信仰を通して沢山の出会い、沢山の恵みを頂いた二日間でした。力障連に参加することができたことをすべての兄弟・姉妹の皆さんに感謝し、この会で学んだことを忘れず、一人のカトリック信者として、主と共に主が示される道を歩んで行きたいです。(谷山教会 源元佳子)

+KABAYAN SEKSIYON+

Mga May-Kabalintunaanang Katangian ng Pananampalataya

Ipagpapatuloy natin ang pagtatalakay tungkol sa ating pananampalataya. Nandito na tayong letrador D. Isang Pagkilos Subalit Isang Proseso-Binibigyan-diin ng pang-apat na kabalintunaan ang Pananampalataya na parehong isang natatanging gawa subalit pagtitiyaga rin ito sa isang habambuhay na proseso na siyang simula ng buhay na walang-hanggan. Ipinahayag ng Ebanghelyo ni Juan: "Ito ang buhay na walang-hanggan: ang kilalanin ka nila, ang iisa at tunay na Diyos at si Jesu-Kristo na iyong sinugo". Ngunit ang pananampalataya kay Kristo ay higit sa isahan at personal na "pasya" para kay Kristo. Ito ay isang mapagbatang uri ng pamumuhay sa loob ng Kristiyanong sambayanan, ang Simbahan. Sa katunayan, ito ang panuntunan ng ating bagong-buhay kay Kristo na nagbibigay sa atin ng patikim sa buhay na kapiling siya sa kalangitan. Ang pananampalataya bilang "pagsunod kay Kristo" ay kailangan dahan-dahan at matiyagang pinaunlad upang madama sa bawat bahagi ng ating buhay hanggang sa wakas ng ating buhay.

E. Isang Biyaya Subalit Tayo ang Gagawa Ang ikalimang kabalintunaan ng pananampalataya ay ang pagiging parehong biyaya mula sa Diyos ngunit isang bagay na dapat nating gawin. Biyaya ito sapagkat "Walang makalalapit sa akin," ani Jesus, "malibang dalhin siya ng Amang nagsugo sa akin". Pinatotohanan ito ni San Pablo: "At hindi rin masasabi ninuman, 'Pang inoon si Jesus, kung hindi siya pinapatnubayan ng Espiritu Santo'. Ang ating Pananampalatayang Kristiyanong samakatuwid, ay hindi lamang sarili nating kagagawan. Nakabatay ito sa Diyos sa dalawang bagay: una, ang malayang handog ng Diyos ng paghahayag Niya ng Kanyang Sarili sa buong kasaysayan ng kaligtasan; pangalawa, sa biyaya ng kaliwanagang panloob na at inspirasyon na "nagbibigay sa lahat ng kagalakan sa pagsang-ayon sa katotohanan at paniniwala rito. Ngunit hinihingi ng "biyaya" ng pananampalatayang kaloob ng Diyos ang ating malayang pakikiisa sa ibang tao. Ipinaliwanag ito ni San Pablo: "Kaya ang pananampalataya ay bunga ng pakikinig; at makakapakinig lamang kung may mangangaral tungkol kay Kristo". Nakabatay ang pakikinig natin sa Salita ni Kristo sa pagpapahayag at pangangaral ngayon tulad ng ginawa nila noong panahon ng mga Apostol

9月の会と催し

- 6日(日) 年間第二十三主日
- 7日(月) 教区司祭会・教区本部・16時
- 8日(火) 聖マリアの誕生
- 13日(日) 定例司祭集会・教区本部・10時
- 14日(月) 年間第二十四主日
- 14日(月) 十字架賞賛
- 15日(火) 糸永真一名誉司教司祭叙階記念日(一九五二年)
- 17日(木) 鹿兒島教区司教座教会献堂記念日
- 20日(日) ロベルト神父霊名(聖ロベルト)
- 21日(月) 年間第二十五主日
- 27日(日) 年間第二十六主日
- ▼メニヒ神父司祭叙階記念日(一九五九年)
- ▼世界難民移住移動者の日(献金)
- 毎年九月の第四日曜日とされている「世界難民移住移動者の日」は、一九七〇年、時の教皇パウロ六世が教皇庁移住・移動者司牧評議会を設立したことを受け、「各小教区とカトリック施設が国籍を超えた神の国を求めて、真の信仰共同体を築き、全世界の人々と『共に生きる』決意を新たにす日」として設立されました。「世界難民移住移動者の日」では、おもに滞日・在日外国人、海外からの移住労働者、定住・条約難民、外国人船員や国際交通機関の乗組員とその家族のために「祈り・司牧的協力・献金」がささげられ、それらは日本カトリック難民移住移動者委員会を通じて、幅広く支援に役立てられています。
- 28日(月) ロベルト神父司祭叙階記念日(一九七五年)
- 29日(火) 聖ミカエル 聖ガブリエル 聖ラファエル 大天使

▼ティエン神父霊名(聖ガブリエル)

宗教・宗派を越えて

前夜祭で平和の集い

ザビエル上陸記念祭

ザビエル祭の前夜祭として八月九日(日)午後、ザビエル教会で平和の集い(パネルディスカッション)が開かれた。この催しは「ザビエル上陸記念祭に新しい企画を」と同記念祭実行委員会が鹿兒島ユネスコ協会の協力を得て実現させたもので、テーマは「世界の恒



久平和をめざして「宗教・宗派を越えて平和を語ろう」。鹿兒島ユネスコ協会の取り纏めで進められた。平和について提言したのは田中弘允氏(鹿兒島ユネスコ協会会長)、福嶋達也師(浄土真宗本願寺派鹿兒島教区相談員)、岡田いわお師(日本基督教団鹿兒島加治屋町協会伝道師)と郡山健次郎司教の四人。四人はそれぞれの立場から約三十分ずつ、平和に対する思いを述べ、その後、会場からの質問に答えた。

提言を受けて会場からは「太平洋戦争を諸宗教団体も容認したのではないか」などの厳しい指摘もあった。一方、「戦争に至った過程の中に教育の力の足りなさがあった。国民全体で戦争を支えてしまった。やはり一人ひとりの中に平和の砦

催し物のお知らせ

- 和善の聖書(後期)
 - 月曜コース(18時30分) / 水曜コース(10時) 教区本部3F「和善の部屋」
- 裏辻洋二神父による御言葉と祈りの集い
 - 9月16日(水)10時~17時・17日(木)9時~14時 教区本部2F会議室 申込:柳(Tel 099-256-3090) 迫田(Tel 099-229-3975)
- 病氣回復・心・霊の一致を実現させるホルスティック療法黙想会(黙想・ミサ・ゆるしの秘跡)
 - 9月14日(月)10時~15時30分 ザビエル教会 坂本進(陽明)神父 受講料:500円(弁当希望者は+500円要予約) 申込:上野(Tel 099-265-4090) 内

同窓会に七十人 教区連合青年会

八月十五日(土)、解散し今は組織されていない「鹿兒島教区連合青年会」の旧メンバーたちが、司教館庭と研修の家(鹿兒島市唐湊二丁目)で同窓会を開いた。鹿兒島教区連合青年会といえは、十年前の一大イベント



「ザビエル渡来四五〇年祭」で活躍した若者たちのグループ。特に彼らはその年の八月十五日に開催された「ザビエル渡来四五〇年国際青年大会」を企画し、韓国をはじめとする諸外国の仲間たちを迎え、大会を意義あるものにした。七百人もの若者の参加があった大会の準備から大会終了までに彼らが流した汗と涙の思い出は消えることなく、十年後のこの日、自然と仲間たちが集う場所に足を向かわせた。ただ変っていたのは当時独身だった彼らの多くが家族を従えての参加となっていたこと。そこに今の青年たちも加わり七十人も集いとなった。

司教執務室便り

司祭年に寄せて

アルバ姿の大きな主任司祭と侍者服姿の小さな女の子のツーショット。神父様を見上げる愛らしい姿に噴出しのセリフ。「はじめてだから…ね!」そんな不安な表情で見上げる少女に「大丈夫!」とでも言いたげな様子の主任司祭。手元に届けられた小教区報のほほえましい写真に思わず破顔一笑。「これは入賞ものだ。そうだ、神父様と子供と題して教区報で紹介したら!司祭年でもあるし。」突然の提案に編集長は直ぐに同意してくれたのだが…。

教会や幼稚園で撮りためたものの中にきつとあるに違いない。ツーショットでなくとも司祭と子供たちの交流の場面でもいい。これから気をつけていると思わずニコツとしたくなる場面に遭遇するかもしれない。若い命がはじける小教区の姿に触れることはみんなの喜び、希望。子供たちをそして司祭たちを教会の要に。そんな思いを込めて、毎日唱えている「司祭のための祈り」の一節を紹介しよう。

「永遠の大祭司であるイエスよ、あなたの司祭たちを誰も触れることのできないあなたの御心に、安心できる隠れ家としてかかまってください。毎日あなたの聖なる体に触れる聖別された司祭たちの手を清く保ってください。」



神父さんの写真募集!

司祭と子供たちや信徒のほほえましい写真を広報部までお送り下さい。教区報に掲載します。下はロベルト神父と初侍者の女の子。



「はいい」と答え、顔を上げることができないまま、額の横にスーと両手を差し出したのです。隣にいた友人も同じように頂きました。ミサが終わる司祭館で朝を頂き、積もる話に花が咲き、懐かしい時が過ぎ、別れの時間になりました。でもご聖体を告解もしていない私にお与えになったことには全く触れず笑顔でお見送り下さいました。そして後ろ髪を引かれるような思いの中、次の目的地宮崎に向かったのです。でも何故か二人とも、涙が止まりませんでした。(次号に続く)

私のそれでも体験

喜びを湧き立たせて下さった聖体拝領①

阿久根教会 岡本ひろ子

二年前の二月の中旬、四十五年ぶりに山口重義神父様と再会しました。幼友達であり洗礼も共に受けた友人と鹿兒島の阿久根と沿いの漁師町です。この旅のきっかけは主人との永遠の別れの後、四十九日を目の前にした失意の時でした。「ひろちゃん、山口神父です。分かりますか?」との電話。この神父様とは、大阪のレデンブートル会の吹田教会で、ブラザーとして働かれておられた時、洗礼を受けて間もない私たちは、よく遊んで頂いたり、み教えを学ばせて頂いた懐かしい懐かしい方だったのです。それも何十年もの間、音信不通だったのですから、電話の声に驚きと懐かしさで、私の心はいっぱいになりました。「会いに行きます」すかさず答えました。そして友人も四十年以上、教会を離れていたのですが、声をかけると「私も会いに行きたい」と言ったので、二人の旅が始まったのです。

同窓会を企画した有志の一人は「連合青年会はなくなってしまったが、当時の自分たちの思いを今の若者たちに伝えてあげたい。彼らに同じ信仰を持つ若者の集いがどんなに素晴らしいものかを伝えたい」とメッセージを送った。

夏期集中講座に80人

今年の夏期集中講座が八月十七日(月)から五日間、ザビエル教会で開かれ約八十人が竹山昭神父から「キリストのたとえ話」について学習した。

今年、あらためてこちらの方にコツコツと神父様の足音が近づいてきたのです。そして私たちの横でピタッと止まり、「キリストの体、永遠の命の糧です。あなたは頂きますか?」と重々しく、ゆっくりと確かめるように言われたのです。「はい」と答え、顔を上げることができないまま、額の横にスーと両手を差し出したのです。隣にいた友人も同じように頂きました。ミサが終わる司祭館で朝を頂き、積もる話に花が咲き、懐かしい時が過ぎ、別れの時間になりました。でもご聖体を告解もしていない私にお与えになったことには全く触れず笑顔でお見送り下さいました。そして後ろ髪を引かれるような思いの中、次の目的地宮崎に向かったのです。でも何故か二人とも、涙が止まりませんでした。(次号に続く)

誓願宣立から六十年

ダイヤモンド祝を迎えて

谷山教会協力司祭

W・フリチエル



私は今年九月三日で、レズンブートル修道会においで、福音的勧告の誓願を立てて六十年を迎えます。司祭であれば叙階した年から数えるのもいいかもしれませんが、私自身をまったくささげる決意をしたのは、まさに一九四九年のこの日でした。福音的勧告は「貞潔」「清貧」「従順」の誓願を言いますが、司祭にとつてもこの徹底した献身は必要不可欠のものとされてい

私は十一歳で教区の神学校に入りましたが、当時の政情でヒットラーユーゲン

隊で働きました。そして除隊後、一九四七年にようやくレズンブートル会の小

ました。今顧みると、神さまに呼ばれた生活は「良かった」と素直に言えます。人生の中で多くの人と出会い、語り合え、神さまと共に賛美し感謝する仲間といること

信仰と漢字(九)

純心学園

司祭 岡 俊郎

心からだんだんと知る生きて見て ヨアキム・アンナ 信仰のすごさ

み言葉のお陰さまで、救われることは高齢者と呼ばれることだ、高齢者としての自覚をもって生きることだと、しみじみ思いました。高齢者であること、高齢者

みことばシリーズ④

触れるとは「聞くこと」III

教区助祭 四條 淳也

朗読者の声を聞くことができる。朗読者の声は、「みことば」を

い。みことばを聞いて聞くにはどのような方法がある

より「旧約聖書」「新約聖書」のほとんどの箇所を

主日の朗読箇所を解説している出版物として『今日のみことば』が真生会館聖書セン

現代のわたしたちは、神の声を直接聞くことはできないが、子どもの頃、絵本

主日の朗読箇所は、A年、B年、C年と三年周期で読む箇所が指定されてい

旧約聖書の原典はヘブライ語で書かれている。真の意味を理解したいならば、興味のある方は、聖書ヘブライ語を学ぶと良い。最近

今回の「教会の祈り」について簡単に述べてみたい。

文芸

短歌

大 口 森 博伸

みことばの書を閉じながらみことばにためらうころクチナシの花

鹿兒島 前田 儀子

アヴェマリアの音階はらむオルゴール

鹿兒島 春山マリ子

今日生きる暗闇の中唯一人他人のお陰

純心学園 川上 和

花ちゃんと帰国教え子六月灯薩摩の花

火リユックに詰めて

言葉とは糸糸のようにまんなまるくあな

名瀬 林 明子

お盆来る亡き人思い手を合はす

鹿兒島 春山マリ子

ユウスゲやちぎれし雲の色に似て

純心学園 川上 和

花籠に十葉活ける聖母像

純心学園 山頭 信子

平和への新たな祈り原爆忌

鹿兒島 徳永ノブ子

べておられます。「高齢化社会になって久しいのですが、最近はお年寄りのニーズを活かし、その長寿を評価するムードが起きています」で始まり、二千字に及ぶ原稿は「もう一度言います。高齢者は恵みです」(「あけぼの」09・9月号)と締めくくっています。喜寿を目前に控えている私にとって、天からの力強い光に打たれた思いです。

寄と令(齡)の中身がだいぶ違うのだろうかと思いつつ、字源辞典を引いて見ました。寄の字形は「家」の意味を表す「宀」と音を表す「奇」(キ)を合わせた字(形声)。

寄の字形は「家」の意味を表す「宀」と音を表す「奇」(キ)を合わせた字(形声)。「イ・よる」である。字義は家内に依託する、寄寓する意。お年寄りは体だけで生きていくの思いが強く、年とともに家族、子や孫にお世話になるばかりのご老人とイメージが重なってしまふ。

令は意味を表す「跪(キ)坐する形」と音を表す屋根型(キヤウ)とを合わせた形声です。字音「レイ」は屋根型がこの音を表してい